



岡山県聴覚障害者センター広報紙

センターだより

VOL.81

2025年・秋号

表紙写真：「のびのびこどもひろば」より。花の寄せ植え体験

## 今号のピック

### 手話に関する施策の推進に関する法律について

■ 所長 神田康弘

手話に関する施策の推進に関する法律(手話施策推進法)が令和7年6月25日に公布施行されました。今回は、この法律の概要について、ご紹介いたします。

手話に関する施策の推進に関する法律案が令和7年6月12日に参議院内閣委員会において起草され、6月13日に参議院において、6月18日に衆議院において、それぞれ全会一致で可決されたものです。

#### 法律の目的

この法律の目的は、次のとおり定められています。「この法律は、手話はこれを使用する者にとって日常生活及び社会生活を営む上で言語その他の重要な意思疎通のための手段であることに鑑み、手話の習得及び使用に関する施策、手話文化の保存、継承及び発展に関する施策並びに手話に関する国民の理解と関心の増進を図るための施策に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、手話に関する施策の基本となる事項を定めること等により、他の関係法律による施策と相まって、手話に関する施策を総合的に推進することを目的とする」として制定されました。

#### 基本理念

基本理念は、次のとおり定められています。

- 手話の習得及び使用に関する施策を講ずるに当たり、手話を必要とする者及び使用する者の意思が尊重されるとともに、手話の習得及び使用について必要かつ合理的な配慮が適切に行われるために必要な環境の整備が図られるようにすること。

- 長年にわたり受け継がれ、かつ、豊かな文化が創造されてきた手話文化の保存、継承及び発展が図られるようにすること。

- すべての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資するよう、手話に関する国民の理解と関心を深めるようにすること。

さらに、国及び地方公共団体の責務については、基本理念の通り、手話に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有することとされました。

#### 基本的施策

基本的施策については、手話を必要とするこどもの手話の習得の支援、学校における手話による教育等、大学等における配慮、職場における環境の整備、地域における生活環境の整備等、その他の手話の習得の支援、手話文化の保存、継承及び発展、国民の理解と関心の増進、手話の日、人材の確保等、調査研究の推進等、国際交流の推進、意見の反映について規定されています。

法律の附則には、「この法律の規定については、この法律の施行後おおむね5年を目途として、その施行の状況等を勘案して検討が加えられ、必要があると認められるときは、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるものとする」と規定されています。

これからは、手話施策推進法に基づき適切な施策が実施されることが期待されます。

内閣府のホームページには、手話施策推進法に係る詳細な情報が掲載されていますので必要に応じてご覧いただきますようお願い申し上げます。



## 1 真庭市で体験登録会を開催しました

8月27日（水）真庭市役所に隣接する久世保健福祉会館で、電話リレーサービス・ヨメテル体験登録会を開催し、26人の参加がありました。デフリンピックの全国キャラバンカーが真庭市役所を訪問する日に開催日を設定したので、聴覚障害者や手話関係者に多数ご参加いただきました。

八百谷講師（日本財団）から電話リレーサービスについて、広理講師（日本財団）からヨメテルについて説明がありました。ヨメテルは、通話相手の声を文字にする電話アプリです。法律に基づいた公共インフラとしてのサービスで、今年1月に始まりました。どちらも24時間・365日、双

## 電話リレーサービス・ヨメテル体験登録会

方向での利用、緊急通報機関への連絡も可能で、いざというときに役立つサービスです。



今回は、真庭市の樋口保健福祉部長や矢田部福祉課長をはじめ市職員の方々にも参加いただきました。行政の方に理解を深めていただくことは、今後の啓発活動により効果的に進める上で大変心強いことです。

今後も、電話リレーサービス・ヨメテルの普及啓発に努めてまいります。

## 2 令和6年能登半島地震から学ぶ



9月20日（土）きらめきプラザ401会議室で開催し、61人の参加がありました。今回は、令和6年能登半島地震の際に石川県聴覚障害者災害救援対策本部の副本部長として聴覚障害者の安否確認等に奔走された藤平淳一氏にご講演いただきました。

藤平氏は平成19年能登半島地震など2度の地震発生時に、被災した聴覚障害者の支援に携わってこられました。安否確認は「すぐに見つけすぐに支援する。会うことが大切」と話されていましたが、それは聴覚障害者ならではの必要な支援だと

## 災害救援専門ボランティア研修会

思いました。藤平氏のお話を聞いて、今後災害対策についてどのような取組をしていくのかを改めて考える機会になりました。

後半は遠隔通訳の実施訓練を行いました。短時間ではありましたが、通訳者は訓練に慣れてきておりスムーズに行うことができました。この研修会で毎回実施訓練を行ってきた成果であり、今後も継続してまいります。聞こえない、聞こえにくいの方々にもっとご参加いただき、通訳者とともに遠隔通訳を体験していただけるようご協力をお願いします。



## 学校教育との連携

8月1日から7日まで（休日等を除く。）の5日間、国立障害者リハビリテーション学院（以下「国リハ」という。）から手話通訳学科2年の学生1名を実習生として受け入れました。国リハからの実習生受入れは13年ぶり2度目です。

施設実習として、事務補助や窓口業務といった基本的な業務をはじめ、センター主催行事への参加をとおして、情報提供施設の事業や役割を学べるよう体験してもらいました。

「のびのびこどもひろば」では、前日の準備から当日の寄せ植え体験の手話通訳、後片付けまで一生懸命取り組んでくれました。

実習期間をとおして、来館される方々に積極的に関わろうとする姿勢が印象的でした。明るく業務に取り組む姿や国リハでの学校生活の話など、職員にとっても良い刺激となりました。今回の実習が、実習生の今後の学びや進路に少しでも役立つことを願っています。



## 文化講演会を開催しました

9月6日（土）きらめきプラザ 401 会議室で、第 10 回文化講演会を開催し、26 人の参加がありました。講師は、岡山県立記録資料館の杉山一雄館長にご講演いただきました。

最初に資料館の開館までのあゆみや記録資料館の仕事について話がありました。所蔵資料は公文書・古文書（私文書）・複製資料があり、書籍や写真などさまざまな資料が約 32 万点所蔵されているようです。

戦時中に残されていた資料には、家庭生活の実践項目が書かれた「国民精神総動員計画実施要綱」、深夜の空爆に備えて個人宅や街灯などの点灯について書かれた「灯火管制」、「戦時下の生活の見直し」などがあり、これらの資料は、戦時下の軍人は食料難や劣悪な環境、過酷な労働、そして死と隣り合わせの日々を強いられているため、国内に生活する人たちも質素な生活を送るよう意識を植付けるために作られたようです。その他にも

児童や学生の学校生活、岡山空襲を体験した子どもの作文や戦争体験者の聞き取り調査の記録、軍人から聞き取った戦地の記録などもありました。

国、県、市町村など様々な資料のなかに戦時中の最も悲惨な昭和 19 年～20 年の生活の記録がなく、戦争体験者の記憶には残ってはいるものの、戦争を経験した人々が少なくなっている今、戦争資料の保存と継承が急がれています。

杉山館長は、保存することだけではなく、資料をもとに検証することも大切。また今の生活を 100 年後に伝えていくことも大切と言われていました。最後に、身の回りで家などの片付けをされている方がいましたら、教育委員会や自治体に連絡をして欲しいと話されていました。



## のびのび子どもひろば

8月2日（土）、聴覚障害者センターで「のびのび子どもひろば」を開催しました。子ども（16人）と保護者、ボランティアなど合計 41 人の参加がありました（うち聴覚障害児・者 11 人）。

まずはゲームタイムからスタート。「割りばしフリフリ落とし」と「わっかすくい」をしました。参加者の年齢が 2 歳から小学 6 年生までと幅がありましたが、それぞれのペースでゲームをしたり応援したりして盛り上がりました。

続いて、今回初めて「花の寄せ植え体験」をしました。岡山市公園協会の「花とみどりの福祉事業」を利用して、土や花の苗の無料提供と公園協会スタッフ 4 名を派遣いただきました。スタッフ

の方から説明と実演があったのち 3 種類の苗を植えました。苗にも「顔」があり正面から見ておさまりのよい向きや高さを考えながら植えます。完成した全員の鉢を並べると、どれも素敵で同じ寄せ植えは一つとなく、子どもたちの豊かな感性が伝わってきました。公園協会のご厚意で全員にオジギソウのプレゼントがあり、手を触れるとお辞儀をするように動くオジギソウに興味津々でした。

最後は、みんなでかき氷。この日も非常に暑かったので、子どもや保護者、協力いただいたスタッフの方々にも大好評でした。



手話で情報発信

◆デフリンピック紹介動画を配信中！

11月15日から26日まで東京で開催される「東京2025デフリンピック」。そのPR活動で全国をまわっているキャラバンカーが8月下旬に県内5か所をめぐるしました。知事や市長への表敬訪問や展示などがあり、地域のニュースに取り上げられました。

センターもデフリンピックを盛り上げようと、「手話で情報発信」で紹介動画を3本配信しています。その中でもおすすめは、出場選手のインタビューです。岡山から出場する走高跳の佐藤秀祐（さとう しゅうすけ）選手と400mハードルの石本龍一朗（いしもと りゅういちろう）選手にインタビューをしました。競技を始めたきっかけや2人の意外な一面が見られます。右下のQRコードを読み込むか、センターのホームページから動画をご覧いただけます。

デフリンピック開催まで50日を切りました。岡山県勢の選手たちの活躍を応援しています！

【センターHPの「手話で情報発信」で配信中のデフリンピック関連動画】

- 第13回「デフリンピックについて紹介します」
- 第14回「東京2025デフリンピックについて紹介します」
- 第15回「岡山から挑むデフリンピック 選手インタビュー」



センターの  
とりくみ

生活応援グッズの展示・体験を通じて聴覚障害者への理解を深めましょう

9月23日（火）秋分の日、杜の街グレース（岡山市北区）でデフリンピックに出場する岡山ゆかりの選手の壮行式が行われました。同会場でデフリンピックの応援イベントも開催され、手話や聴覚障害に関するブースが設けられました。当センターもこのイベントに参加し、振動式目覚まし時計、字幕メガネ、光で知らせるフラッシュ受信機などの「生活応援グッズ展示・体験」のブースを担当しました。来場者の方々には、これらの生活応援グッズを実際に手に取って、楽しみながら体験していただきました。

とりわけ、映画館で字幕対応の映画を楽しむ「字幕メガネ」の展示・体験は、とても好評でした。体験された方々のなかに映画館に勤務されている方がいらして、「聴覚障害のあるお客様が来館されたときは、字幕メガネを紹介したい。」と話してくださったことは、うれしい出来事でした。

今回、聞こえる人にも大勢体験していただきました。展示・体験を通じて、聞こえない人や聞こえにくい人に対する理解が深まるきっかけとなればと願っています。

編集後記

デフリンピック全国キャラバンカーが真庭市役所を訪問する日に電話リレーサービス・ヨメテル体験登録会を開催したので、準備で訪れたセンター職員もキャラバンカーを近くで見ることができました。キャラバンカーの色は大会のメインカラーである桜色がベースで、やさしいピンク色の車が市役所の駐車場で際立っていました。この日、市役所本庁ロビーではデフリンピックの展示やミニ手話教室、silent マルシェが開催されました。デフリンピックとともに手話にも関心を持ってもらいイベントとなっており、真庭市内だけでなく全県下から聞こえない人や手話サークルの方々が集まって盛り上げていました。



開館カレンダー

- ◆開館日 月・水～金曜日 9時～19時  
土・日曜日 9時～17時
- ◆閉館日 毎週火曜日、国民の祝日、火曜日が祝日の場合その翌日も休館  
※年末は12月27日（土）まで開館し、年始は1月5日（月）から開館します

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
11月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土
12月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		